

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	綾部市こども発達支援施設「あいむ」		
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～ 令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 24人
○従業者評価実施期間	令和8年3月11日		～ 令和8年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別（マンツーマン）で指導員が支援することで、一人一人に応じた支援や保護者との信頼関係を築きやすい。	・子どもの好きな遊びや活動、好きなことや物を把握して信頼関係を築くようにしている。 ・通所時に子どもの心身の状態を保護者から聞き取ったり、療育終了後にその日の子どもの様子（成長を感じた場面や支援を行った場面）を丁寧に伝えたりし、共通理解を図っている。 ・担当、保護者、児童発達支援管理責任者で話し合いを重ねながら、個別支援計画を作っている。	・職員の自己研鑽、研修への参加。 ・個々の子どもの特性や発達に合わせた対応、遊びや支援の充実、保護者支援等をより知っていくために研修を積み重ねていく。
2	・子どもが安心感をもち、通所を楽しみにしている、保護者の満足度が高いところ。	・臨床心理士や作業療法士、音楽療法士が常勤しており、子どもへの関わり方や支援等を相談できる体制が整っている。 ・職員同士のチームワークが良く、日々のコミュニケーションが図りやすい職場環境がある。	・遊戯室の遊具の組み方について作業療法士の意見も聞きながらアップデートしていきたい。
3	・こども発達支援施設として十分な広さ、部屋数がある。 ・清潔で心地よく過ごせる環境、こどもの活動に合わせた空間になっている。	・たくさんの活動室があり、こどもの人数や活動に合わせて部屋を選択し活動することができる。 ・複数の部屋を使い分けることで、準備や片付けがスムーズにできるため、活動時間の確保や内容を深めることができる。 ・職員間でどのように部屋や空間を使うかについて、常に意見を交換し、改善を図っている。	・活動がスムーズに進むよう、また子どもたちが安全に遊べるように、気付いた点は会議等で意見を出し合っていく。 ・地域の方や関係機関にも施設を開放し、利用していただけるようにすると、施設の価値がさらに高まると思う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者が参加できる研修会や提供できる研修会の情報が少ない。 ・きょうだいに特化した支援はしていない。	・保護者に研修会のニーズや、参加できる時間的余裕があるか分からない。	・子どもの発達や特性、関わり方等、保護者の方が学びたいと思っている内容についての学習会が実施できるとよい。 ・案内が他のパンフレットにまぎれていたりもするので、精査したり置く場所を工夫したりする。 ・きょうだい支援をすでに実施されている他事業所に、どのように支援をされているのかを聞きたい。その中で取り入れていけるものがあれば取り入れていきたい。

2	<ul style="list-style-type: none"> 施設で行われていること（他の事業のこと）で、分からないことがある。 施設全体の業務をまだ全員が把握できていないところがある（誰がどんな仕事をしているか、この施設がどんな役割を果たしているのかがよく理解できていない）。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援と放課後等デイサービスとは、サービス提供時間帯が違うため、職員同士のコミュニケーションが図りにくい。 “自分の担当以外の業務は知らなくてもよい”と思っている職員の考え方。 各部署同志の連携（報告・連絡・相談）が十分に取れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有事項の貼り出しや声かけを行い、職員同士で事務室内の掲示ボードを見る習慣をつける。 定期的に全体会議を実施する。 全員がこの施設の一員であり、お互いにサポートし合う仲間であるという意識の強化を図る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 様々なマニュアルの周知が十分でなかった。 避難訓練や防犯についての取り組みなど、保護者に周知できていないところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルや案内が玄関付近に置いてあったが、目にとまりにくかったり“見て見よう”と思える声かけが少なかったのかもしれない。 避難訓練の実施について、通信やホワイトボードで伝えてはいるが、こどもの様子を保護者に伝えきれていないのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会の中で、繰り返し保護者に知らせていく。 訓練を行った時は、改めてこどもの様子を保護者に伝えたり、通信で知らせたりしていく。